



鹿児島県立 出水養護学校

児童生徒数 252 人
学級数 52 クラス



《テーマ》

笑顔あふれる学校

～お互いの人権を尊重し、相手を思いやる～

研究に当たって（テーマ設定の理由）

児童生徒が幸福感で満たされ、笑顔であふれている毎日を過ごせるように支援していくことが大切であると考え、「人権教育」という視点から、職員自身の研修の在り方や授業実践について研究し、笑顔あふれる学校の実現に向けて日々努力していきたいと考え、このテーマを設定した。

研究スケジュール

8月29日 職員研修「人権教育は全ての教育の基本」
9月28日 第1回高等部生徒対象講話
「ちょっと忘れただけなのに：SNSトラブルを防ぐために」
12月7日 第2回高等部生徒対象講話
「わたしも大切・あなたも大切：みんなが笑顔になるために」

特色ある取り組み（他校にもおすすめの取り組み）

□ 校内人権週間

小学部では

1年生から6年生それぞれの学級で人権の花である「ひまわり」作りに取り組んだ。学級の友達と仲良く協力し合いながら、元気いっぱいの明るいひまわりの花を作ることができた。できあがったひまわりは、廊下に掲示し、みんなで毎日鑑賞している。

中学部では

それぞれの学級で、実態を考慮しながら、自分自身について振り返り、友達を認められるような授業を行った。友達を認める言動や学校生活、SDGsなどの題材を基に、友達や自分の良いところに気付き、伝え合う活動を行った。互いに思いやりをもって行動するためには、相手に感謝する気持ちや友達の良いところに気付くことや称賛することの大切さに気付くことができた。その結果、活動を通して、お互いを認め合ったり、相手を思いやる行動が増えたりするなど生徒の言動に変化が見られ、学習を通して出てきた言葉や印象的なフレーズ、生徒の感想を学習発表会の演目の中で盛り込んで発表する学年もあった。

高等部では

SNS、いじめ、LGBTについて考える活動、人権標語作成、ひまわりの絵・塗り絵、ひまわりの育成、友達のいいところ探し、前向きな言葉探し、人権に関する紙芝居の読み聞かせ、などの活動に取り組んだ。



□ 人権教室（対象者：高等部1～3年生）

県教育庁人権同和教育課から指導主事に来校いただき、高等部1～3年生を対象に、いじめをテーマとした講話をしていただいた。

SNSでのやりとりの中で、ほんのちょっとした言葉のニュアンスの違いからクラス中の友達からいじめを受ける事態に発展した事例や、自分も相手も両方を大事にするにはどういった行動をとればよいかなど、生徒達の身近な事象について、深く易しく話をしていただいた。生徒達は真剣に話に聞き入り、講話後、活発な質問が講師の先生に出された。



子どもの人権プロジェクト推進校の取組の成果と課題(子どもの変容、よかったこと、今後やってみたいこと)

- 校内人権週間に各学部で積極的な取組を行ったことで、児童生徒が自分の良さや、友達の良さに気付き、どうしたら友達をつくることができるかを真剣に考えるなど、人権を意識する態度が育ってきた。
- 人権同和教育課から講師の先生に来ていただき研修を行ったことにより、職員も児童生徒もより深い学びを得ることができた。